

炭酸カルシウム発泡断熱材

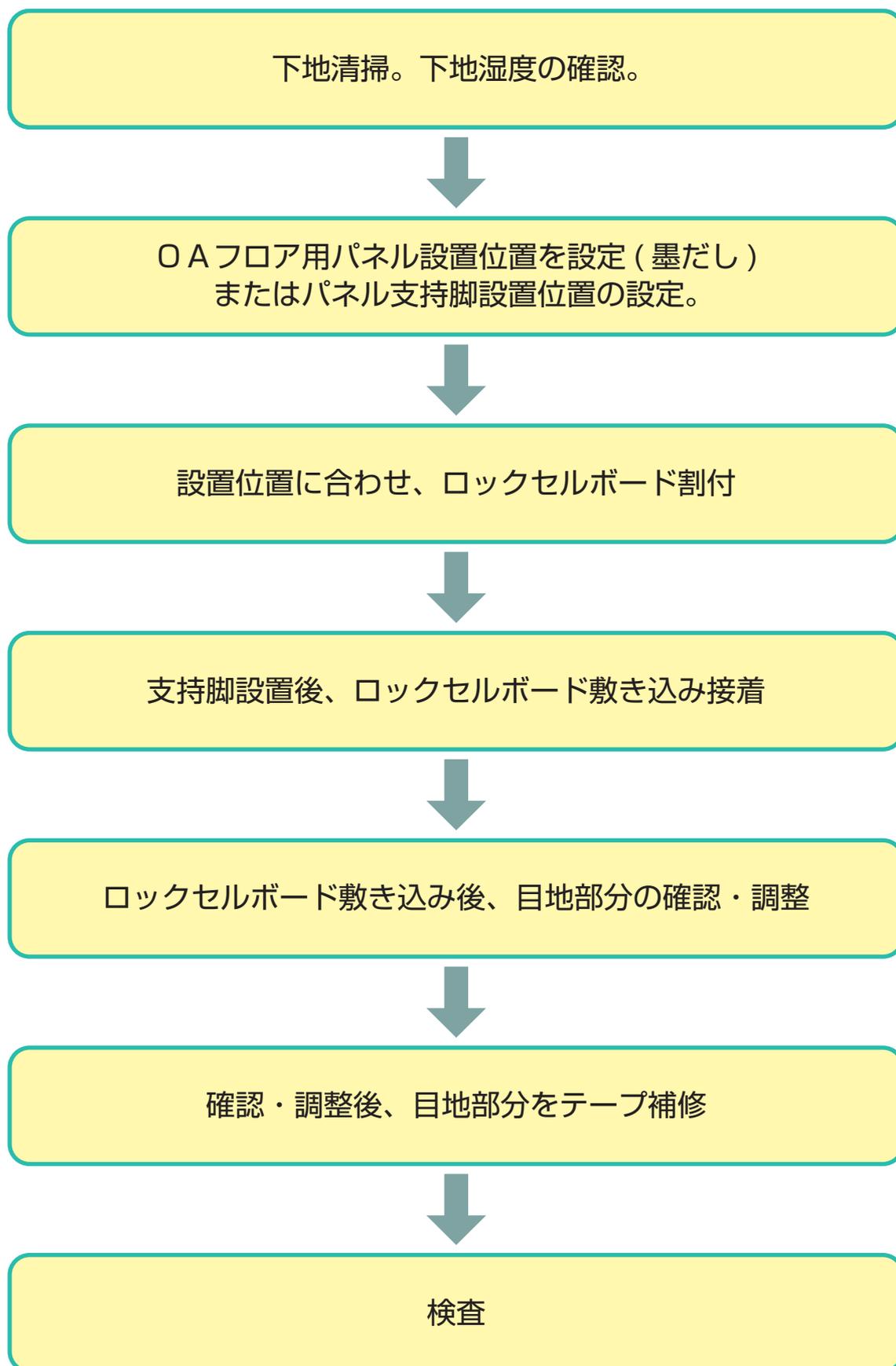
ロックセルボード®

OAフロア床下断熱工法

- 施工要領書 -



◆ 施工要領フロー



◆ 材料

- 炭酸カルシウム系発泡板「ロックセルボード」
製品サイズ：910 mm × 1,820 mm × 厚み(5 t、10 t)
※OAフロアの種類等によりサイズカット可能(例：500mm 角等)
(但し素材の収縮が大きいいため、現場プレカットを推奨)
- 推奨接着剤：一液型ウレタン系接着剤
(メーカー：セメダイン、日立化成ポリマー等)
- 推奨補強材：アルミテープ・・・ロックセルボード目地部分補修用
(メーカー：日立マクセル等)

◆ 施工要領

1. 断熱材の保管

- 屋内にてパレット等に敷き、水平に保管する。
- 高温や日射による断熱材の収縮・反りを防止するため、重さのある合板やコンパネ等で重しをして保管する。
- やむを得ず屋外保管の場合は地面に直置きせず出来る限り水平な場所を選びかい木敷き、直射や雨等がかからないようシートで保護してください。

2. 断熱材敷き込み

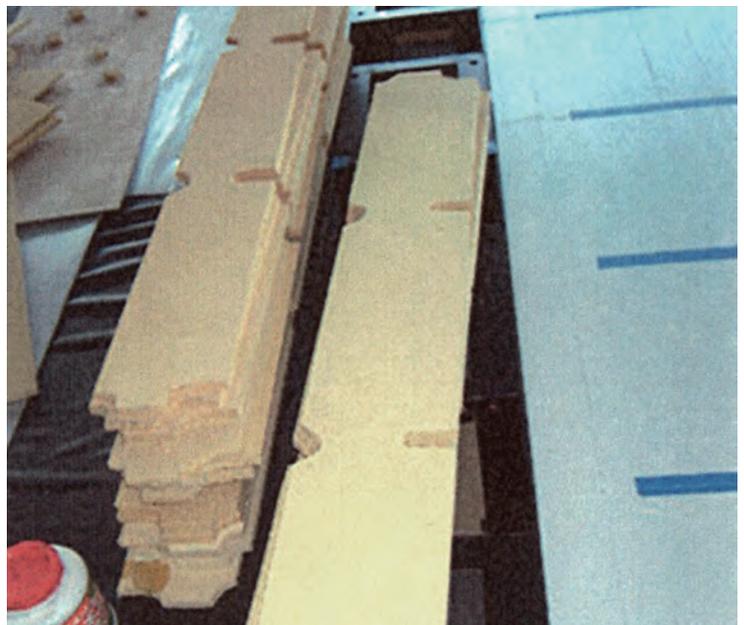
- 下地(施工面)の汚れや付着物の清掃、不陸等のチェック並びに補修。
- 下地の湿度が適切か確認。
- 墨だしによりOAフロア用パネルの設置位置を設定し、それに合わせ支持脚を設置。
- 支持脚設置後、ロックセルボードを支持脚受台基盤に合わせ端部をカットし、敷き込み接着。
- ロックセルボード接着においては、支持脚受台基盤よりはみ出た接着剤で貼付可能であるが、ロックセルの浮きが発生しないように、しっかりと固着し接着する。(ウレタン系接着剤等)
- ロックセル敷き込み接着の際、目地部分に開き(隙間)等が無いか確認。開きがあった際は、断熱材の端材もしくは開いた寸法に合わせて現場でカットした断熱材にて補修。
- 側面に接着剤を塗布し目地の開きを抑えるか、アルミテープやシール剤などで、補修・補強する。

◆ 施工手順（提案）

- O Aフロア用支持脚を設置後、もしくは支持脚設置位置を決めてからロックセルボードを敷き込み接着。
- ロックセルボード接着の際、部分接着します。（端部点付や側面くしびき状等）または支持脚設置時の接着剤でロックセルボードを止めることも可。
基本的にロックセルの全面接着を推奨してますが、現場のご判断で浮きの発生を抑えながら部分接着をして下さい。



- ロックセルボード敷き込み前に、必要ならば支持脚に合わせロックセルボードをカット。 ※合板などで当て板を作成し、それにならってカット。



- ・ロックセルボード敷き込みの際、目地部分に隙間や浮きが空かないように注意して接着してください。（接着面積は広く、接着箇所は多い方が良い）側面に接着剤を塗布し目地の開きを抑えるか、アルミテープやシール剤などで補修・補強する。
※ロックセルボードの端材で補修することも可。



◆ 断熱材使用時の注意事項

- ・直接及び高温にさらされると変形・収縮する恐れがあります。ご注意ください。
- ・敷き込み接着前の仮置きの際、断熱材の上を歩行すると断熱材が凹む可能性があります。ベニアなどで当て板をし、その上を歩行してください。
- ・断熱材敷き込み後の寸法ずれ発生の可能性があります。
上記記載の通り、断熱材をカットする等で補修可能です。
- ・断熱材積み下ろしの際は角や側面などを損傷しないようにご注意ください。
- ・ロープ等で吊り上げる際はナイロンスリング等を使い、当て板などを用いて損傷にご注意下さい。
- ・保管場所は原則として屋内に保管し、やむを得ず屋外で保管の場合は、地面に直接置かず出来る限り水平な場所を選び、かい木を敷き、直接日光や雨等がかからないようにシートで保管してください。

※本施工要領書に記載されていない事項におかれましては、「日本建築学会 建築工事標準仕様書・同解説 JASS 24 断熱工事」に則り施工してください。

■ お問い合わせは



本社 / 〒543-0013 大阪市天王寺区玉造本町11-24
TEL : 06-6763-1221 (代) FAX : 06-6763-1229
東京 / 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-13 大手町宝栄ビル4F
TEL : 03-3259-7825 (代) FAX : 03-3259-7829

URL : <http://www.gl-honsyu.co.jp/>